

欧州特許庁、ロシア知的財産庁と機械翻訳ツールの提供に向けた協力を合意

2012年5月17日

JETRO デュッセルドルフ事務所

欧州特許庁（EPO）は、5月16日、ロシア知的財産庁（ROSPATENT）と機械翻訳ツールの提供に向けた協力を合意した旨、プレスリリースを行った。

同日に、EPO のパティステリ長官と ROSPATENT のシモノフ長官との間で合意文書に署名が行われたものであり、同合意の下で両庁は、EPO ウェブサイト上での無料の機械翻訳サービス「Patent Translate」に利用するための二言語のコーポラを作成することを目的として、英語とロシア語のフルテキストの特許文献の交換を行う。

EPO のパティステリ長官は、プレスリリースにおいて次のとおりコメントしている。「欧州特許システムの歴史において初めて、ロシア語の特許がユーザーに利用可能となる。本合意は EPO とロシアの関係において新たな分野を切り拓くものであり、限界的な要因である言語を取り除くことによって、特許に含まれる豊富な技術が、両地域のイノベーターにもたらされるだろう。特許の情報機能は高く評価してもし過ぎることはない。イノベーションは世界市場であり、研究者、科学者および発明者に対して特許文献のコレクションを英語およびロシア語で利用可能にすることによって、EPO と ROSPATENT は、地域レベルと国際レベルにおけるイノベーションの過程を強化することに意義深く貢献する。とりわけ、研究機関や中小企業は、新たな技術に関する情報への改善されたアクセスから利益を享受する。」

また、ROSPATENT のシモノフ長官は、次のとおりコメントしている。「本合意は、欧州におけるロシア企業の特許出願およびロシアにおける欧州企業の特許出願を促進するものであり、回りまわって我々の2つの地域における更なるイノベーションへと繋がる。」

EPO は、中国国家知識産権局（SIPO）と2011年11月30日に、日本国特許庁（JPO）と2012年2月6日に、機械翻訳ツールの提供に向けた同様の協力を合意しており、2012年2月29日には、無料の機械翻訳サービス「Patent Translate」の提供を開始している。EPO は、2014年末までに、EPC 締約国の28の公用語に加えて、中国語、日本語、韓国語、ロシア語の合計32言語について機械翻訳サービスを提供する予定であるとしており、各国特許庁との協力によって着実に取組を進めている。

－ EPO のプレスリリースは、以下参照 －

[EPO and Russia sign agreement on machine translation of patents](#)

- － EPO と SIPO の機械翻訳の協力に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 ー
[欧州特許庁、中国国家知識産権局と機械翻訳ツールの提供に向けた協力を合意（2011年11月30日）（PDF）](#)
- － EPO と JPO の機械翻訳の協力に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 ー
[欧州特許庁、日本国特許庁と機械翻訳ツールの提供に向けた協力を合意（2012年2月6日）（PDF）](#)
- － EPO と Google の協力による機械翻訳サービスの提供開始に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 ー
[欧州特許庁、Google との協力による機械翻訳サービスの提供を開始（2012年3月1日）（PDF）](#)

(以上)